

## 平成 28 年度 病虫害発生予察 特殊報 第 1 号

病虫害名： ミナミアオカメムシ *Nezara viridula* (Linnaeus)

対 象： 野菜類、水稻

### 1. 病虫害情報の内容

ミナミアオカメムシの発生と被害を東京都区部、北多摩地域、南多摩地域および大島町において初めて確認した。

### 2. 発生経過

(1) 平成 25 年 8 月以降大島町のブロッコリー等(図1)、平成 28 年 7 月末から 10 月にかけて、区部(足立区、葛飾区)の野菜、北多摩地域(小金井市、国分寺市)のナス、南多摩地域(稲城市、町田市)の野菜および水稻においてカメムシ類が確認された(表1、図2、図3)。採取したカメムシ成虫を形態的に同定した結果、ミナミアオカメムシであることを確認した。

(2) 本種は以前から東京都小笠原村および八丈町では分布が確認されていたが、上記地域での発生は初確認である。

(3) 本種については平成 14 年以降、福岡県、大分県、静岡県、島根県、佐賀県、愛知県、香川県、広島県、兵庫県、京都府、千葉県、滋賀県、岐阜県、岡山県、神奈川県で発生が確認され、特殊報が発表されている。

### 3. 形態

成虫は体長 12~16mm。近縁種であるアオクサカメムシによく似ているが、体がより縦長、前胸背側角の突出が弱い(図4)。触覚第3~5節の前半分が褐色(アオクサカメムシは黒色)、腹部背面(翅下の腹板)が緑色(アオクサカメムシは黒色)であることなどで識別できる(図5)。なお、成虫の体色はアオクサカメムシと同様に多くの色彩変異があり、体色でのアオクサカメムシとの識別はできない(図6)。

### 4. 生態

世界各地の熱帯から亜熱帯、温帯地方南部に広く分布し、日本では本州、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島に分布する。成虫で越冬し、越冬場所は枯れたイネ科植物で覆われた地表面や積みわらの中、常緑樹の樹幹部など様々で、最寒月の平均気温が5℃以下の地帯では越冬できないとされている。

### 5. 被害

(1) 幼虫、成虫とも口器を刺して植物の汁液を吸収する。広食性で水稻、大豆、野菜類、果樹類など 32 科 145 種の植物を加害することが知られている。

(2) 水稻では主に穂を吸汁し、斑点米を発生させる。他の斑点米カメムシ類に比べて体が大きく、吸汁量が多いため、低密度でも被害が大きくなるとされている。

## 6. 防除対策および注意

- (1) 果菜類、果樹、水稲、大豆等での被害が懸念されるため、本種を確認したほ場では必要に応じて、各作物でカメムシ類に登録のある農薬を、収穫前日数、散布回数、散布量などの登録内容を確認の上、薬剤散布を行う。
- (2) 本種を確認したほ場では次作の増殖源をなくすため、水稲では収穫後のヒコバエ等を放置せず早めに耕耘する。また、果菜類、果樹、大豆等も収穫の終了したほ場を放置せず早めに片づける。
- (3) 不明な点があれば病害虫防除所や普及センターに連絡する。



図1 ブロッコリー圃場の幼虫  
(大島町)



図2 エダマメ圃場の幼虫  
(足立区)



図3 加害されたオクラ  
(町田市)

表1 東京都内でミナミアオカメムシを確認した地域と被害作物

地域	市町村	採集日*	被害作物
区部	足立区	7/25	エダマメ、スイートコーン
	葛飾区	7/25	エダマメ、インゲンマメ
北多摩	小金井市	8/10 および 9/29	ナス
	国分寺市	8/24 および 9/28	ナス
南多摩	稲城市	9/28 および 10/12	キャベツ
		10/19	水稲
	町田市	9/28 および 10/12	オクラ
島しょ	大島町	8/29	オクラ
		9/26	ゴマ
		10/31	ブロッコリー

※区部・多摩地区は 2016 年、大島町は 2013 年



図 4 成虫 (スケールは 10 mm)



図 5 成虫の変異型 (白帯型)

※アオクサカメムシも同様の変異型があるため、体色でアオクサカメムシとの識別はできない。



図 6 腹部背面の色の違い (左:ミナミアオカメムシ、右:アオクサカメムシ)